

まちづくり交付金 事後評価シート
小諸宿周辺地区

平成20年12月

長野県小諸市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名		長野県		市町村名		小諸市		地区名		小諸宿周辺地区			面積		110 ha												
交付期間		平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期		平成21年3月		交付対象事業費		1,707.90		国費率		0.4													
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		東郷土西原線外一線、弁慶橋(黒橋)交差点改良、おふらや小路、大手駐車場整備、懐古園～小諸宿連絡道、小諸駅周辺整備(地域交流センター)																						
			提案事業		社会実験調査、事後評価																						
	当初計画から削除した事業		事業名						削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響														
			基幹事業		大手駐車場整備 小諸駅周辺整備(地域交流センター)				大手駐車場整備:周辺駐車場の空き状況や他事業の駐車場確保等、総合的見地より削除 小諸駅周辺整備:鉄道会社との調整で駅舎改築は先送りとなり、次期計画に変更				大手駐車場整備:影響なし 小諸駅周辺整備:数値指標の「小諸駅の利用者数」の直接的改善への貢献が見込めないため、指標を変更														
	新たに追加した事業		提案事業		なし																						
			基幹事業		市道0112号線(赤坂～古城) 懐古園 夜間照明整備 懐古園 花卉植栽 大手門公園 大手門エントランス広場 駅前トイレ				市道0112号線:街路事業の一部を道路事業の修繕に変更 懐古園 夜間照明整備:懐古園の魅力向上のため、城跡をライトアップ 懐古園 花卉植栽:懐古園の魅力向上のため、植栽の充実を図る 大手門公園:駅前公園を拡張変更し、国の重要文化財の大手門を含めて整備 大手門エントランス広場:大手門への国道141号および北国街道からの動線確保 駅前トイレ:効果的利用のため設置箇所を検討し、公園事業から独立				市道0112号線:影響なし 懐古園(夜間照明整備、花卉植栽):魅力向上により、目標等改善への貢献を見込む 大手門公園:地区一体の周遊性の向上により、目標等改善への貢献を見込む 大手門エントランス広場:大手門～北国街道の動線を確保でき、目標等改善への貢献を見込む 駅前トイレ:賑わいの創出に貢献し、目標への貢献を見込む														
	交付期間の変更		当初変更		平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響																				
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況		指標		単位		従前値		目標値		数値		目標		1年以内の		効果発現要因		フォローアップ								
							基準年度		目標年度		モニタリング		評価値		達成度		達成見込み		(総合所見)		予定時期						
指標1			本町通りの交通量		台/日		3,874		H15		2,000		H20				3,543		×		あり なし		本町通りの一方通行化は同意形成が得られず中止となり、数値目標に至らなかった。				
指標2			本町通りの歩行者数		人/日		631		H15		700		H20				638		×		あり なし		本町通りの歩道拡幅は合意形成が得られず美装化に留まり、通行車両は軽減されず路上駐車もあり、歩行者空間の環境改善が不足				
指標3			懐古園の利用者数		人/年		240,090		H15		240,000		H20				224,301		○		あり なし		入園者数の減少止めはできたが、団体旅行の減少や気候・天気による影響もあり、集客数は伸び悩んでいる。		平成21年4月頃		
指標4			ほんまち町屋館の利用者数		人/年		18,124		H15		20,000		H20				44,299		○		あり なし		関連事業の施設整備に加え、まちづくり活動で活用された効果があった。		平成21年4月頃		
指標5		観光ガイド協会の数		人		28		H15		30		H20				35		○		あり なし		市民のまちづくり活動への機運が高まり、積極的な参加が促進された。		平成21年4月頃			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況		指標		単位		従前値		目標値		数値		目標		1年以内の		効果発現要因		フォローアップ									
						基準年度		目標年度		モニタリング		評価値		達成度		達成見込み		(総合所見)		予定時期							
		その他の数値指標1		本町通りの事業の満足度		%		-		H15						86.7				本町通りの歩道美装化や修景整備等の取り組みにより「歴史と文化を生かしたまちづくり」の実現に効果が見られた。							
		その他の数値指標2		懐古園における電線類地中化率		%		0		H15						100.0				夜間照明整備と併せて電線類地中化が実施され、懐古園の魅力向上が図られた。							
その他の数値指標3																											
4)定性的な効果発現状況		NPO法人などの市民団体による情報の発信やイベントの開催などの活動が活発化してきた。具体的には、市と協働でまちづくり便りを定期的に発行、大手の杜・市民学校のまちづくりプロジェクト事業の検討、花と緑の学校、食のたんけん隊のなどを実施した。イベント開催の活動のほか、「北国街道ほんまち町屋館」「北国街道荒町館」の管理・運営をしている。																									
5)実施過程の評価		実施内容								実施状況								今後の対応方針等									
		モニタリング		なし						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																	
		住民参加プロセス		NPO法人「こもろ街並み研究会」、「こもろ情報ひろば」の設立、話し合い						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								NPOこもろの杜が設立され、そこに管理棟の指定管理を予定している。									
		持続的なまちづくり体制の構築		まちづくり推進協議会						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								横の連携をうまくとっていく。									

様式2-2 地区の概要

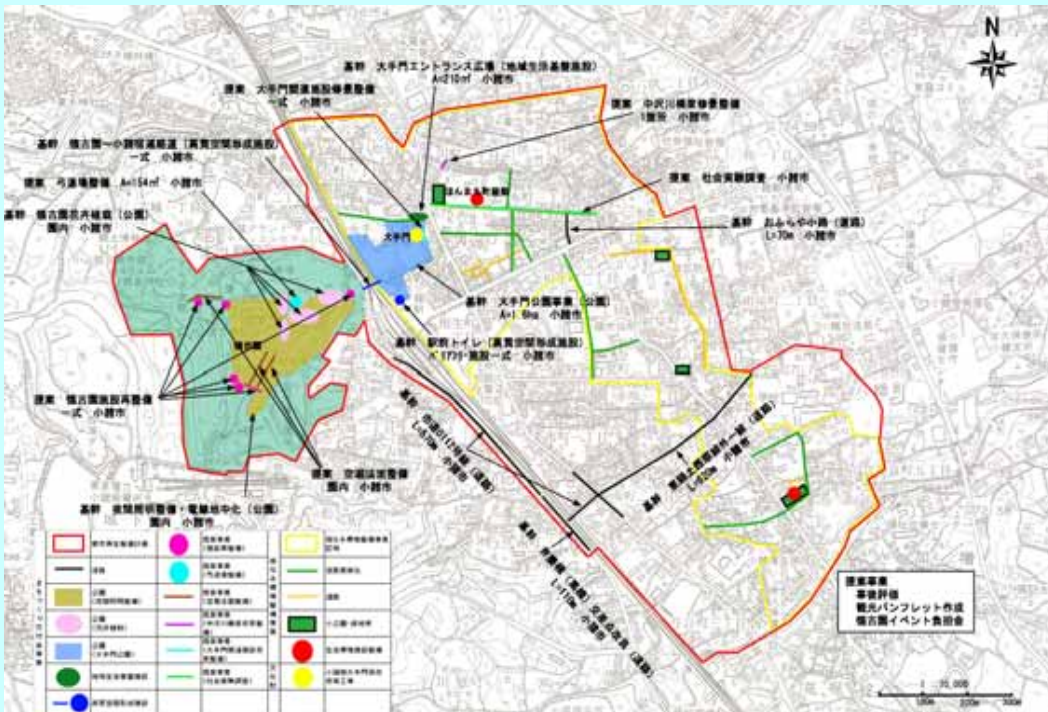
小諸宿周辺地区(長野県小諸市) まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
『小諸に新旧のハーモニーが奏でる新しい賑わいを創出』 1 「高原に育む活力ある詩情公園都市・小諸」を目指し、自然と歴史・文化を生かした小諸らしい誇りあるまちづくりを進める 2 中心市街地において歩行者が安全でゆとりある歩行者空間を創出し、懐古園から小諸宿周辺への一体的な周遊性の向上を図る 3 市民が主体となった地域活動の支援を行なうとともに、市民と来訪者が交流できる新しい賑わいの創出を図る		本町通りの交通量	単位:台/日	3,874	H15	2,000	H20	3,543	H20
		本町通りの歩行者数	単位:人/日	631	H15	700	H20	638	H20
		懐古園の利用者数	単位:人/年	240,090	H15	240,000	H20	224,301	H20
		ほんまち町屋館の利用者数	単位:人/年	18,124	H15	20,000	H20	44,299	H20
		観光ガイド協会の数	単位:人	28	H15	30	H20	35	H20



懐古園(上段:空堀、下段:案内板)



弁慶橋(黒橋)交差点改良





本町通り



東郷土西原線外一線

まちの課題の変化	・本町通りをはじめとした小諸宿の一部道路が美装化するなど景観に配慮した歩行者系道路として整備された。 ・小諸宿周辺地区において重要な位置付けとなる「地下連絡道(小諸宿～懐古園)」は空間演出の検討が進んだ。 ・駅前トイレは整備され、駅～本町通りをつなぐ大手門周辺整備は確実に進展し、魅力再生に貢献した。 ・駐車場整備は周辺駐車場の空き状況や他事業の駐車場確保等、総合的見地より削除したが、路上駐車など問題が残る。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	・駅・大手門周辺を小諸の顔として魅力再生するため、駅舎併設複合交流センターの建設は急がれる。 ・小諸宿周辺地区内の道路網を早期に完成させる。社会実験による計画策定と市民の合意形成など歩行者空間の創出するための手段検討を行う。 ・小諸宿地区の周遊性の向上のため、点にする観光資源を案内する機能の充実が必要である。 ・体験型イベントの開催や観光メニューの開発など来訪者がつい歩きたくなる仕掛け作りに取り組む。 ・利用者ニーズを反映した施設整備やサービス、HPで積極的に情報発信するなど、懐古園の魅力向上を図る。

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		1、市街地の道路整備を進め、通過・観光交通等を分離・誘導する幹線道路の整備と共に、歩行者が安全でゆとりの歩行者空間を創出する 2、歴史と文化を生かしたまちづくりを進めるとともに、懐古園から小諸宿への一体的な周遊性の向上を図る 3、回遊の拠点にふさわしい快適な小諸駅周辺の整備改善により、住民と観光客が利用しやすい市街地交通施設を形成するとともに、新しい交流の拠点として賑わいの創出を図る	1 「高原に育む活力ある詩情公園都市・小諸」を目指し、自然と歴史・文化を生かした小諸らしい誇りあるまちづくりを進める 2 中心市街地において歩行者が安全でゆとりある歩行者空間を創出し、懐古園から小諸宿周辺への一体的な周遊性の向上を図る 3 市民が主体となった地域活動の支援を行なうとともに、市民と来訪者が交流できる新しい賑わいの創出を図る	目標の内容をより具体化し、より小諸らしさを出すために、表現を変更した。
B. 目標を定量化する指標	●		○ 懐古園の利用者数	○ 懐古園の利用者数(有料入場者数)	懐古園の利用者数は無料入場者も含んでいるので、有料入場者数に絞って、整備効果を検証することとした。
	●		○ 小諸駅の利用者数	○ 観光ガイド協会の数	駅舎改築事業が見送られたので、賑わい創出の効果をガイド協会員数より確認する。
C. 目標値	●		a. 本町通りの交通量:1,200台/日	a. 本町通りの交通量:2,000台/日(+800台/日)	a. 当初の想定より交通量の減少が見られなかったため、目標値を下げた。
	●		b. 本町通りの歩行者数:900人/日	b. 本町通りの歩行者数:700人/日(-200人/日)	b. 当初の想定より歩行者の増加が見られなかったため、目標値を下げた。
	●		c. 懐古園の利用者数:300,000人/年	c. 懐古園の利用者数:240,000人/年(-60,000人/年)	c. 当初の想定より有料入場者数が増加しなかったため、目標値を下げた。
	●		d. ほんまち町屋館の利用者数:25,000人/年	d. ほんまち町屋館の利用者数:20,000人/年(-5,000人/年)	d. 当初の想定より利用者が増加しなかったため、目標値を下げた。
D. その他()		●			

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	東郷土西原線外一線	730	L=980m W=12m	446	L=620m W=12m	赤坂～古城区間は道路事業として追加するため、区間を短縮	影響なし	●	
道路	弁慶橋(黒橋)交差点改良	85	L=110m W=10～12m	167	L=110m W=12m	公安委員会との協議で一部設計に変更が生じたため、事業期間と事業費を変更	影響なし	●	
道路	おふらや小路	7	L=70m W=3.6～5m	6	L=70m W=4m	地元調整に時間がかかったため、事業期間を変更し、事業費も精査	影響なし	●	
道路	市道0112号線(赤坂～古城)	-	なし	365	L=570m W=9m	平成18年に計画変更して街路事業(東郷土西原線外一線)から道路事業に追加し、修繕のため事業量増加	影響なし		●
公園	懐古園 夜間照明整備	-	なし	103	A=18.8ha	懐古園の魅力向上のため、城跡をライトアップする当事業を平成17年に計画変更して追加	懐古園の魅力向上のために、電線地中化と合わせて城跡をライトアップする夜間照明整備を新たに計画した。目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
公園	懐古園 花卉植栽	-	なし	5	A=18.8ha	懐古園の魅力向上のため、植栽の充実を図る当事業を平成17年に計画変更して追加	懐古園の魅力向上のために、景観に見合う花卉植栽を新たに計画した。目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
公園	大手門公園	-	なし	301	A=1.6ha	駅前公園を拡張変更し、国の重要文化財の大手門を含めて整備する。平成18年に計画変更して追加	懐古園～小諸駅～小諸宿の周遊性の向上のため、国の重要文化財である大手門を含め、歴史漂う緑豊かな公園整備を新たに計画した。目標・数値指標の改善への貢献を見込む。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	大手駐車場整備	105	面積1,500㎡ 台数50台	0	面積0㎡ 台数0台	周辺駐車場の空き状況や他事業の駐車場確保等、総合的見地より平成19年に計画変更して削除	影響なし	—	—
地域生活基盤施設	大手門エントランス広場	-	なし	28	A=210㎡	大手門への国道141号および北国街道からの動線確保のため、平成19年に計画変更して追加	関連事業により整備した大手門を活用するために、国道141号線からアクセスできて、かつ北国街道との動線を確保できるエントランス広場を新たに計画した。目標・数値指標の改善への貢献を見込む。		●
高質空間形成施設	懐古園～小諸宿連絡道	52	景観形成施設一式 L=80m W=3m	24	景観形成施設一式 L=50m W=3m	連絡道入口付近の整備は公園事業で行うため、事業量が減少	影響なし		●
高質空間形成施設	駅前トイレ	-	なし	46	A=80㎡	効果的利用のため、設置箇所を検討の上、公園事業から平成19年に計画変更して事業を追加	大手門公園事業の一部として当初計画されていたが、より効果的な利用を狙って、設置場所を賑わい拠点である駅及び大手門公園に面する位置とする計画を新たに立案した。賑わいの創出に貢献し、目標への貢献を見込む。	●	
高次都市施設	小諸駅周辺整備(地域交流センター)	300	床面積 650㎡	0	床面積 0㎡	鉄道会社との調整から駅舎改築は先送りとなったため、平成18年に計画変更して当事業は次期計画に見送る	数値指標の「小諸駅の利用者数」の直接的改善への貢献が見込めない。そのため目標を変更し、指標は削除した。	—	—
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

¹:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	懐古園 空堀法面整備	-	なし	105	A=3,000㎡	安全性確保と史跡保護のため、空堀補強の事業を平成17年に計画変更して追加	崩落しつつある空堀を補強し、園を訪れる人々の安全性確保と史跡保護のため新たに計画した。懐古園の魅力向上に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
	懐古園 施設再整備	-	なし	36	A=18.8ha 白鶴橋ほか	懐古園の魅力向上のため、白鶴橋や園内施設の再整備事業を平成18年に計画変更して追加	老朽化が目立つ白鶴橋や園路、休憩施設、案内板等の再整備を新たに計画した。懐古園の魅力向上に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
	懐古園 弓道場整備	-	なし	37	A=154㎡	老朽化で景観も損ねているので、2008年の80周年記念を契機に整備するため平成19年に計画変更して追加	弓道場は老朽化が進んで景観を損ねているため、平成20年の80周年記念を契機に、懐古園の風情と一体となる弓道場新設を新たに計画した。懐古園の魅力向上に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。		●
	中沢川 橋梁修景整備	-	なし	18	1箇所	まちなか散策の魅力向上のため、修景整備事業を平成18年に計画変更して追加	小諸宿を流れる中沢川に架かる橋の表面の化粧直しを行う予定だったが、老朽化が当初の推定より激しいことが判明したため、修景整備を新たに計画した。歩行者空間の創出に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。		
	大手門 関連施設修景整備	-	なし	2	一式	他事業で行う大手門の保存修理と合わせ、隣接する土塀の修景整備事業を平成18年に計画変更して追加	文化庁の補助事業で行なっている大手門の保存修理工事に合わせて、隣接する土塀の修景整備を新たに計画した。歴史・文化を活かしたまちづくりに貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
事業活用調査	社会実験調査	3	-	3	-	なし	-		
	事後評価	5	-	3	-	事業費精査のため	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	懐古園 イベント負担金	-	なし	16	-	懐古園の集客率向上のため、イベントを開催 平成17年に計画変更して追加	観光のブーム的付随である懐古園に新たな魅力を創造するため、イベント実施の負担金補助を新たに計画した。市民と来訪者が交流できる新しい賑わいの創出に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	
	観光パンフレット作成	-	なし	1	-	旧北国街道の見所を周知するため、パンフレットを作成 平成17年に計画変更して追加	小諸宿の魅力を市民や来訪者に周知するため、旧北国街道の見所を中心としたパンフレットを新たに作成する。新しい賑わいの創出に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む。	●	

1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
街なみ環境整備事業		小諸宿周辺地区	1,560	1,810	平成11年～平成20年	平成11年～平成20年	一部未着手箇所を残すが、事業としては完了する。	
特定交通安全施設等整備事業		荒町～与良	10	-	平成15年～平成19年	-	歩道整備への沿道商店街の同意が得られずに中止。	
鉄道施設整備		小諸駅	150	-	平成17年～平成19年	-	耐震補強事業やその他事業の優先度が高くなり、予算が困難となり中止。	
小諸城大手門保存修理事業		大手門	-	245	-	平成16年～平成19年	計画通りに実施されている。	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	本町通りの交通量	台/日	平成20年10月7日に実測した交通量を把握	4,389	H9	3,874	H15	2,000	H20	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	3,543	事後評価	×	
指標2	本町通りの歩行者数	人/日	平成20年10月7日に実測した歩行者数を把握	993	H9	631	H15	700	H20	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	638	事後評価	×	
指標3	懐古園の利用者数	人/年	平成20年4～6月末時点の月別の有料入場者数を計測し、過去の年間入場者数の傾向(平成16～19年度)とあわせて、評価値を推計	431,141	H6	240,090	H15	240,000	H20	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	224,301	事後評価		
指標4	ほんまち町屋館の利用者数	人/年	平成20年4～6月末時点の月別の利用者数を計測し、過去の年間入場者数の傾向(平成16～19年度)とあわせて、評価値を推計	-	-	18,124	H15	20,000	H20	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	44,299	事後評価	○	
指標5	観光ガイド協会員の数	人	平成20年5月31日時点の観光ガイド協会員数をヒアリングから把握し、評価値とする	10	H10	28	H15	30	H20	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	35	事後評価	○	

指 標	目標達成度○ ×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	関連事業における本町通りの一方通行化計画や代替幹線道路整備による交通負荷の分担から目標値を設定した。しかし、沿道住民らの同意を得られなかったため一方通行化が実現せず、交通量の減少傾向は見られず、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	
指標2	関連事業により本町通りは歩道を拡幅して歩行者系道路として整備する予定だったが、沿道住民らの同意を得られずに実現しなかった。暫定整備に留まっており、歩行者数の増加傾向は見られず、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	実測データは平日調査のため、来訪者を把握できていない可能性がある。
指標3	数値目標に至っていないが、交付開始以前は減少傾向であった入園者数が、施設再整備など指標の直接的改善につながる事業によって、交付開始後は横ばい傾向に転じたと考えられる。	
指標4	関連事業による施設整備が指標の直接的改善につながり、毎年度の利用者数を見ると着実に増加している。	
指標5	従前値の1割増を目指したが、期待以上の成果をあげることができた。	

1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

○ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)				本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標 1	本町通りの事業の満足度	%	アンケート調査(本町区住民の 180世帯を対象に平成20年10月 10日に配布)より本町通りの事 業に満足している人の割合を把握	-	-	-	H15	モニタリング				本町通りに関する指標1、2は目標 に達しないが、歴史・文化を生かし たまちづくりの効果は確実にあった と思われ、地区住民の満足度より 効果を検証する。	指標1、2を補完して、本町通 りの事業効果を説明する。
								事後評価	確定 見込み	●	86.7		
その他の 数値指標 2	懐古園における電線類地 中化率	%	H15年着工前は6基の電線が あった(L=139m)。夜間照明整 備による電線地中化率を把握	0	H10	0	H15	モニタリング				懐古園の利用者数は目標に達しな いが、公園事業による効果は確実 にあったと思われ、本指標で施設 整備の成果を説明する。	指標3を補完して、懐古園の 整備効果を説明する。
								事後評価	確定 見込み	●	100.0		
その他の 数値指標 3								モニタリング					
								事後評価	確定 見込み				

1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

NPO法人など市民団体による情報の発信やイベントの開催などの活動が活発化してきた。具体的には、市と協働でまちづくり便りを定期的に発行、大手の杜・市民参加のまちづくりプロジェクト事業の検討、花と緑の学校を実施、食のたんけん隊の実施などをした。また、イベント開催の活動のほか、「北国街道ほんまち町屋館」「北国街道荒町館」の管理・運営を行っている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
NPO法人「こもろ街並み研究会」、「こもろ情報ひろば」の設立、話し合い	予定どおり実施した	- 活発な活動がされて、持続的まちづくり体制の組成に発展した。 - 市と協働でまちづくり便りを定期的に発行 - 大手の杜・市民参加のまちづくりプロジェクト事業の検討 - 花と緑の学校の実施 - 食のたんけん隊の実施	NPOこもろの杜が設立され、そこに管理棟の指定管理を予定している。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
まちづくり推進協議会	予定どおり実施した	それぞれのまちづくり協議会ができていて、それぞれの独自の活動をしている。	イベント開催の活動のほか、「北国街道ほんまち町屋館」「北国街道荒町館」の管理・運営を行っている。	横の連携をうまくとっていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事業に係る全ての課による検討会	企画課、商工観光課、生涯学習課、財政課、都市計画課	● 期間中1回の会議を実施 9月8日 ● その他、メール等にて意見交換を実施	建設部 都市計画課 計画係

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標4		指標5		その他の指標1		その他の指標2	
指 標 名		ほんまち町屋館の利用者数		観光ガイド協会員の数		本町通りの事業の満足度		懐古園における電線類地中化率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	東郷土西原線外一線	○	従来から取り組んでいた街なみ環境整備事業による施設整備に加え、こもろ街並み研究会やまちづくり推進協議会によるまちづくり活動において当該施設が活用された効果により、利用者数が増えた。	-	懐古園をはじめとした小諸宿に点在する観光資源の整備により賑わいが創出されたことにより、観光ガイドの需要が増えた。 また、市民のまちづくり活動への機運が高まり、積極的な参加が促進された。	-	関連事業による本町通りの歩道美装化や修景整備等の取り組みにより「歴史と文化を生かしたまちづくり」の実現に効果が見られた。	-	夜間照明整備と併せて電線類地中化が実施され、懐古園の魅力向上が図られた。
	弁慶橋(黒橋)交差点改良	○		-		-		-	
	おふらや小路	○		-		-		-	
	市道0112号線(赤坂～古城)	○		-		-		-	
	懐古園 夜間照明整備	-		○		-		-	
	懐古園 花卉植栽	-		○		-		-	
	大手門公園	○		○		-		-	
	大手駐車場整備	-		-		-		-	
	大手門エントランス広場	○		○		-		-	
	懐古園～小諸宿連絡道	○		-		-		-	
	駅前トイレ	-		-		-		-	
	小諸駅周辺整備(地域交流センター)	-		-		-		-	
	懐古園 空掘法面整備	-		○		-		-	
	懐古園 施設再整備	-		○		-		-	
	懐古園 弓道場整備	-		○		-		-	
	中沢川 橋梁修景整備	-		○		-		-	
	大手門 関連施設修景整備	○		○		-		-	
	社会実験調査	-		-		-		-	
	事後評価	-		-		-		-	
	懐古園 イベント負担金	-		○		-		-	
	観光パンフレット作成	○		○		-		-	
	街なみ環境整備事業	-		○		-		-	
関連事業	特定交通安全施設等整備事業	-		-		-		-	
	鉄道施設整備	-		-		-		-	
	小諸城大手門保存修理事業	○		○		-		-	

指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	市民のまちづくり活動の場、観光交流の拠点として利用を促進する。	市民の地域活動の支援を継続し、市民協働のまちづくりを図る。		
-------	---------------------------------	-------------------------------	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指 標 名		本町通りの交通量			本町通りの歩行者数			懐古園の利用者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	東郷土西原線外一線	×	信号がなく見		×	提案事業で歩		-	様々な懐古園				
	弁慶橋(黒橋)交差点改良	×	通しの良い本		×	道拡幅を計画		-	の施設整備に				
	おふらや小路	×	町通りは、流入		×	したが、合意形		-	取り組んだ結				
	市道0112号線(赤坂～古城)	×	交通量が大き		×	成が得られず		-	果、入園者数				
	懐古園 夜間照明整備	-	い。一方通行		×	美装化に留		-	は減少傾向か				
	懐古園 花卉植栽	-	化を提案事業		×	まった。通行車		-	ら横這い傾向				
	大手門公園	-	で計画したが		×	両は軽減され		-	に転じた。しか				
	大手駐車場整備	×	同意形成が得		×	ず路上駐車も		-	し、団体旅行の				
	大手門エントランス広場	-	られず中止と		×	あり、歩行者空		-	減少や気候・				
	懐古園～小諸宿連絡道	-	なった。また、		×	間の環境改善		-	天気による影				
	駅前トイレ	-	幹線道路ネット		×	は不足してい		×	響もあり、集客				
	小諸駅周辺整備(地域交流センター)	-	ワークにおける		-	る。また、駅～		-	数は伸び悩ん				
	懐古園 空堀法面整備	-	東郷土西原線		×	通りにかけて		-	の開放はなくイ				
	懐古園 施設再整備	-	外一線など代		×	案内板等はな		-	イベントも少ない				
	懐古園 弓道場整備	-	替幹線道路の		×	く、動線はつな		-	ので施設は十分				
	中沢川 橋梁修景整備	-	整備効果は期		×	がっていない。		-	分に活かしき				
	大手門 関連施設修景整備	-	待ほど現れな		×			-	れていないと				
	社会実験調査	×	かった。		×			-	考えられる。				
	事後評価	-			×			-					
	懐古園 イベント負担金	-			-			×					
	観光パンフレット作成	-			×			-					
関連事業	街なみ環境整備事業	×			×			-					
	特定交通安全施設等整備事業	-			-			-					
	鉄道施設整備	-			-			-					
	小諸城大手門保存修理事業	-			×			-					

目標未達成への影響度

- × × : 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
× : 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
: 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

要因の分類

- 分類 : 内的な要因で、予見が可能な要因。
分類 : 外的な要因で、予見が可能な要因。
分類 : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類 : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	道路改良工事の早期完成など、交通ネットワーク化の推進に取り組む。	車両交通量の軽減と合わせて、歩行者空間創出を目指す。駅～大手門～本町通りの動線をつなぎ、さらには小諸宿地区に点在する観光資源をネットワーク化して沿道そのものの魅力向上にも取り組む。	施設活用のため、検討会を実施して、施設の魅力向上に取り組む。積極的にPRの機会を増やし、市民への開放、多彩なイベント開催により集客増加を目指す。	
------------------	----------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
全庁的な検討会	企画課、商工観光課、生涯学習課、財政課、都市計画課	・期間中1回の会議を実施 9月24日 ・その他、メール等にて意見交換を実施	建設部 都市計画課 計画係

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
安心で快適な歩行者空間の確保	・本町通りをはじめとした小諸宿の一部道路が美装化するなど景観に配慮した歩行者系道路として整備された。	・本町通りは提案事業の一方通行化計画が合意形成を得られず中止となり、歩行者と車両の適正な分離は不十分である。	小諸の顔である、駅舎併設複合交流センターの建設が、急務となった。
鉄道および国道による懷古園と小諸宿の分断の解消	・小諸宿周辺地区において重要な位置付けとなる「地下連絡道(小諸宿～懷古園)」は空間演出の検討が進んだ。	・点在する観光資源を案内する機能の充実が必要である。	
「街の顔」としてふさわしい小諸駅周辺整備	・駅前トイレの整備 ・駅～本町通りをつなぐ大手門周辺整備は確実に進展し、魅力再生に貢献した。	・鉄道会社との調整から駅舎改築は先送りとなったため、次期計画に整備を行う。 ・相生町商店街の活性化が期待される。 ・市民や来訪者が集い活気を取り戻す拠点として大手門周辺の整備を継続する必要がある。	
自動車利用者のニーズに応じた利便性の高い中心市街地における駐車場整備		・周辺駐車場の空き状況や他事業の駐車場確保等、総合的に見地より削除したが、路上駐車が見られるなど改善が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅～大手門周辺の整備	・駅・大手門周辺を小諸の顔として魅力再生する。 ・市民と協働して整備メニューや事業メニューを検討する。 ・本町通り、懐古園との動線創出を図る。	・大手門公園整備事業 ・小諸駅周辺整備(地域交流センター) ・本陣主屋等の再活用

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	歩行者空間の創出	・小諸宿周辺地区内の道路網を早期に完成させる ・歩行者空間の創出するための手段検討	・社会実験による計画策定と市民の合意形成 ・交通分散のための案内標識の設置 ・路上駐車を減らすための手段検討
	小諸宿地区の周遊性の向上	・にぎわい創出により、小諸宿を知ってもらい、楽しんでもらう ・小諸宿の魅力を発揮するため、点在する観光資源をつなぐ ・来訪者がつい歩きたくなる仕掛け作り	・空き店舗活用事業 ・体験型イベント等の開催 ・小諸宿散策をより楽しめる観光メニューの開発 ・歩行者誘導サインや案内板の設置
	懐古園の入場者数の増加	・利用者ニーズを反映した施設整備やサービスによる魅力向上を目指す。 ・料金割引などにより利用者を獲得する。 ・多彩なイベントを開催し、懐古園を再認識してもらう。 ・より多くの人に知ってもらうためのPR活動を行う。	・安全柵及び張芝替えの施設再整備 ・懐古園利用促進に係る検討会の実施 ・サービスデーや特典などの利用促進の手段検討 ・イベントの開発・研究 ・HPでイベント告知や季節ごとの様子を情報発信

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2 - 、2 - に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2 - 、2 - から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が × の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画					
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標 1	本町通りの交通量	台/日	3,874	H15	2,000	H20	確定見込み	●	3,543	×	ありなし	●	→				
指標 2	本町通りの歩行者数	人/日	631	H15	700	H20	確定見込み	●	638	×	ありなし	●	→				
指標 3	懐古園の利用者数	人/年	240,090	H15	240,000	H20	確定見込み	●	224,301		ありなし	●	→	平成21年4月	商工観光課が平成20年度の入場者数(有料入場者数)を集計した結果より、達成状況を確認する。		
指標 4	ほんまち町屋館の利用者数	人/年	18,124	H15	20,000	H20	確定見込み	●	44,299	○	ありなし		→	平成21年4月	都市計画課が平成20年度の利用者数を集計する。		
指標 5	観光ガイド協会の数	人	28	H15	30	H20	確定見込み	●	35	○	ありなし		→	平成21年4月	都市計画課が観光協会に平成20年度末時点の登録人数を把握する。		
その他の数値指標 1	本町通りの事業の満足度	%	-	-			確定見込み	●	86.7					→			
その他の数値指標 2	懐古園における電線類地中化率	%	0	H15			確定見込み	●	100.0					→			
その他の数値指標 3				H			確定見込み							→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・数値目標が適切に設定されているか、モニタリングを実施して確認する必要がある。
	うまくいかなかった点	・交付期間途中に供用した事業の効果をモニタリングで確認しなかったため、過大な目標設定になってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・モニタリングを実施して、事業の進捗状況を確認して指標の見直しを図ることが必要である。 ・指標を設定する際には、事前評価の段階から事業効果を見るために適した方法か検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	・本町通りの交通量は代替路線整備および一方通行化の効果を見込んで目標値を設定したが、一方通行化事業が完成に至らず目標値に大きく及ばなかった。 ・本町通りの歩行者数は来訪者の周遊性向上を評価するものであるが、平日の歩行者数調査の実測データを用いたため、来訪者を把握できていない可能性がある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・本町町屋館の指定管理により、区民の主体性が確立できた。 ・NPO法人の活動が活発化し、多くの市民の参加が得られた。	・目標でもある「市民が主体となった地域活動の支援」は円滑なまちづくり事業には今後も必要である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		・計画変更が生じた場合、目標、効果(指標)、方針、事業の関係を再度整理、分析しておく必要がある。
	うまくいかなかった点	・計画変更を反映せずに事業評価を行なったため、事業の目標、指標(数値目標)、整備方針、事業の関連性が低く、効果発現要因の分析に苦慮した。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後のまちづくり交付金の活用予定

小諸の顔である、駅舎併設複合交流センターの建設が急務と考えられる。次期計画の作成に今期の経験を活かしていく。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成20年10月27日～11月10日	平成20年10月27日～11月10日	担当課への 電話、FAX、電子メール	都市計画課 計画係
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成20年11月1日発行 広報こもろ11月号	平成20年10月27日～11月10日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	なし
-------	----

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員					
その他の委員	区長会会長、小諸女性みちしるべの会代表、女性団体連絡協議会会長、女性ネット会員、小諸市観光協会会長、商工会議所会頭、農業委員会会長、建築士会会長、市議会議員、佐久地方事務所長、佐久建設事務所長、小諸警察署長	第1回 平成20年10月1日 第2回 平成20年11月13日	都市計画課 計画係	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	既存組織(都市計画審議会)の委員を改めて委員に委嘱

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・地区の目標を考えると、指標2の歩行者数は計測データは平日1回だけではなく、観光客の多い時期の計測も必要との意見があった。 ・その他指標によって、方法書に記した指標を適正に補完していることが確認された。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・指標2(歩行者数)の未達成の要因の1つに団体バスを利用した観光客の減少が考えられるとの意見があった。 ・懐古園入園者数は車利用と鉄道利用の状況を把握する必要があるとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は適正に行われたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・ハード整備してもPRが足りないと活用されないの、施設活用を担当課だけでなく観光課も含めて、総合的に検討する必要があるとの意見があった。 ・本町通りは流入交通を抑えたいが、賑わい創出するためには、地区全体では流入交通は増えて行かない目標は達成されない。目標達成のためには駐車場が必要と考えられる。標識による誘導も重要であるという意見があった。 ・本町通りのスクランブル交差点の混雑は早急な検討が必要であるとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・賑わい創出を交通量で評価するのであれば、鉄道利用状況も含めるべきであるとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・次期計画の数値目標として、賑わい創出の効果を確認するためには、駅乗降客数や商業収入が考えられるとの意見があった。

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。